



なんでやねん



発行責任者 兼橋 忠

No. 6 1

「防犯カメラを設置するか。君が市長だったら どうする」

か だいさくぶん ひょうが か き じゅん

課題作文の評価基準

1 今回の課題作文で、作文(小論文)を書くために必要な手順

さくぶん しょうろんぶん かい ひつよう て じゅん

公民的分野に入ってはじめて、課題作文「防犯カメラを設置するか。君が市長ならどうする」に挑戦してもらいます。作文を書く前に、作文の書き方と、評価基準(採点基準)を説明しておきます。

賛成する立場と、反対する立場のように、意見が対立する場面が「論点」(対立する場面)であり、この「論点」に対して自分の意見(結論と、その根拠)を明確に答えることが「作文」とか「小論文」では、非常に大事になります。

今回のような場合は、次のような手順で書くといいでしょう(別の順番でもよい)。

① まず、防犯カメラを設置することに、賛成なのか、反対なのか、あるいは少しだけ設置して、大きな効果があれば設置数を増やすという中間の立場など、自分の結論を明確に書くことが大切です。

② その上で、自分の結論を出すために「検討した内容」や「結論を出した理由・根拠」の説明をします。この部分の書き方が、作文の優劣を決めます。

③ 結論を出すために、検討しなければならないことは、防犯カメラ設置に賛成の立場の言い分と、反対の立場の言い分の、両者の言い分を説明する(書くこと)が必要になります。自分の立場しか書くことができないのは、相手の言い分を聞いていないのと同じだからです。このように意見(利害)が対立している場合には、両方の言い分を公平に聞く(説明する)ことが必要なのです。

その上で、防犯カメラを設置した場合の良い面(メリット)と、悪い面(デメリット)を考えます(効率)。次に、どちらの立場をとる方が、より人権を保障することになるのかを考えることが必要です(公正)。この公正の次元で考える場面では、二者択一で考えるのではなく、考え方をまとめる方法はないのか(合意)、つまり、お互いに納得できる方法はないのかと考えることが民主主義に最も近い政治のしかたになります。その意味では、防犯カメラを設置する場合には、プライバシーの権利を守りながら実現する方法を考えることになるでしょう。

2 今回の課題作文の配点基準

自分の結論を書くことができている(2点)。

対立している内容の説明ができている(対立)(2点)。

防犯カメラ設置のメリットとデメリットを説明できている(効率)(2点)。

設置する場合と、設置しない場合のどちらが市民の基本的人権を守れるようになるのかを検討している(合意)(2点)。ここまでで合計8点です。

さらに、防犯カメラを設置することについての問題点に、自分なりの結論を出した根拠(理由)を筋道を通して説明できているか(公正な思考・判断)を評価します。その部分が2点です。それで、合計10点満点になります。